

桜蔭俳話会 九月句会 (第三二八回)

平成二十六年九月二十八日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

3点①赤まんまござの真中のひとり言	ツル子
2点①鑄掛け屋の屋号残り鉦叩き	ヤエ子
2点①コスモスの根元アリスの出入り口	守
2点①柿熟るる再開発の構想図	守
2点①妻よりも友であるとき吾亦紅	才美
2点①母の声ざるいつぱいの衣被	ツル子
2点 良く混ぜし母の糠床隼人瓜	ヤエ子
2点 満月や見透かされそな胸の奥	友子
2点 豊年の旗のはためく道の駅	幸
1点①風に乗る上棟の塩新松子	幸
1点 晩年の父の寡黙よ今年酒	守
1点 ガス台に油の染みや秋刀魚焼く	明美
1点 電話鳴りかはるがはるの敬老日	ツル子
1点 肌透ける故宮青磁や水の秋	友子
1点 外階段上る下駄音月涼し	幸
1点 馴染みたる友の筆癖秋の声	才美
1点 翳りたる朝日の社旗や文化の日	明美
1点 口切りの一声高し虫時雨	秀一
1点 ゴツホならこの稔田を何と見る	才美
1点 秋深し暖もり残るバスの席	ヤエ子
1点 忽然と咲く道楽し曼珠沙華	ヤエ子
1点 蓮の実の沈みし水の暗さかな	守
1点 軍用機の爆音次々翳雲	ヤエ子
1点 夏競馬当たらぬ馬券また買へり	眞壽
1点 秋祭半泣きの子の肩車	守

※

いわし雲あしたの遊び予約する	才美
過去ありて消せぬ想ひの秋の水	眞壽
保養所の赤き飯櫃今年米	秀一
カサカサと種採る音や小半時	弘子
蓋開けて喜び叫ぶ茸飯	眞壽
残照のそえ木に重し鶏頭花	ツル子
ちりばめし飛機の天井秋星座	幸
花野みち目鼻うすれし道祖神	弘子
ビル灯る都会沈めし秋出水	明美

ささやかに家族で別ける土瓶蒸し 眞壽
 花木権べにの深さや今日を咲く ツル子
 迷ひなき線の素描や秋ともし 秀一
 ひとり子に祖父母四人や敬老会 友子
 蛸のその日暮らしが気に入りに 眞壽
 ビードロを吹く子の影や放生会 明美
 暮れかかる原の群なす秋あかね 弘子
 降りたちて田畑広がる彼岸花 弘子
 野分雲ミットに撓るボールかな 明美
 色鳥やたちまち天を押し広ぐ 才美
 秋の蚊に占拠されたる憩ひの場 友子
 湿生花園秋草の名を書き留めり 秀一
 せつかちな性分いまに秋夕焼 秀一
 開発の山の根こそぎ秋出水 友子
 掃き寄せて大方こぼれ萩ばかり 弘子
 (不在投句 増田守、古野明美、稲葉幸)

「事務局からお知らせ」
 ○十月句会(吟行となります)
 ・期日 十月十八日(土)
 ・場所 山下公園、横浜大栈橋、象の鼻付近
 詳細は、同封の案内をご覧ください。

○十一月の句会

- ・日時 十一月二十三日(日)午後一時から
- ・会場 旭区民文化センター・サンハート
- (相鉄線二俣川駅ライフ五階)